洪徳寺の由来

参考資料

しょしゅうほんまつちょう
「延享二年　諸宗本末帳」（松浦史料博物館蔵）

とうざんせはいき
「當山世牌記」（洪徳寺所蔵）

「新豊寺年代記」

「松浦党研究NO .9 」～宗家松浦氏ゆかりの寺院・神社～　池田和博氏

當山世牌記

而シテ伽藍ノ初祖ト云ニ于時文安元甲子年二月三日示寂宝亀山頂ニ全身入塔ス此師新豊開山ト請スル事ハ照山和尚住山ニ大檀丹刕太守洪徳断續シ破壊ノ地ニ請住セラルヲ以テ勝地捨難クヤト考フ（奇石ノ亀石ハ當来アルベシ霊地ト云ヘシ）四世鳳洲大麒大和尚者當産姓不詳遊歴ノ後天翁清ノ室ニ投シ后玉林ニ出世シテ新豊ニ住ス于時文明三辛卯年八月十日示寂宝亀山頂ニ全身入塔ス五世中興照山宗鑑大和尚者當産姓不詳遊方後

鳳冲麒ノ室ニ入テ玉林ニ出世シ新豊ニ住スル日大旦丹刕太守ノ洪徳ノ破壊地ノ篤請ニ應ス頃ハ永禄八年乙丑ノ孟夏也（當山ハ元来済門ナル事不詳開山笑山岩誾ヨリ五代住ノ後ニ與住新讃トナル故ノ事ヲ香山水ノ塔記自説吟シモナシ浸收新録欤一）就新豊本尊初伽藍一式持ト後ニ上タリ忽洞上ノ門風起テ文盛ナルヤ叔大旦丹刕公御信仰ノ熊野権現御勧請モナサセラレ境内山林ノ西傍ニ神殿舞殿酒蔵等（今ハ火焼所ト云）ノ御造営熊野権現詣ノ勧請ニテ迁宮シ社領御寄附ノ趣當山ノ以山號御稱号ニテ飯盛大権現ノ

神號ハ御武運長久ヲ可祈奉トノ厚御深意ヲ込ラルヽ事ハ照山和尚此旨ヲ以テ熊野詣也ト祇園ノ社ハ寺初建ノ鎮守也故今両鎮守ト云フ前件旨ノミナラズ當山ニ後ハ伽藍ノ初祖ナルヲ以テ天柱與中興ノ両字ヲ加ヘサテヽ二百五十餘年迨ノ中此一字ノ光明失スルコトヤ新豊山上ニ全身入塔ス此塔ノ年月ハ照山和尚自作ノ件ノ年号也已上ノ天林和尚大麒和尚ノ両塔共ニ同作ニ示寂年月日共ニ不詳（此示寂ノ年月ヲ失スル事ハ後来暗人ノ手段 當山天林和尚ハ初祖ニテアル事ヲ不知伽藍ノ師資首）

勅賜有真空禅師

當寺開山無著妙融大和尚

皇紀貳千五拾参年
明徳四年癸酉八月
十貳日示寂
1393

（敕特賜真空大禅師）正慶二癸酉年産於隅州 姓者藤氏也 後住于京師永興寺（南朝年号）
天授元乙卯（皇紀二千〇三十六）開創豊後泉福寺 次肥前玉林寺之開祖也
享年六十一歳 法臘四十三年

開山示寂ノ年ヲ以テ新豊寺ノ年ト限リテ開創ノ時トス

二世天真融適大和尚

1406
皇紀貳千五十六年
應永十三丙子年十月
二十日示寂（干支ヲ考フレバ十三年ニ非ズ 三年也）

開創新豊寺而本師老和尚請開祖 自立中興二世之牌名

三世天翁鳳清大和尚

鳳

1444
皇紀二千百〇四年
文安元甲子年三月
三日示寂

新豊寺住山 後為西方寺伽藍初祖

四世鳳卿大麒大和尚

1471
皇紀二千百三十一年
文明三辛卯年六月
十日示寂

新豊寺住山 住于西方寺二世

五世中興照山宗鑑大和尚

八月二十九日示寂

住新豊寺之日 依太守之命 移洪徳寺 洪徳寺者元臨済宗曾不詳而
開山笑岩闇以来五世而無住所頽 故移之而建之伽藍 于時永禄八乙丑年
（皇紀二千二百二十五年）孟春也 西方寺三世

六世功雲崇徳大和尚

十一月朔日示寂

西方寺四世

七世亀翁英鶴大和尚

皇紀二千二百九十六年
1636
寛永十三丙子年
八月十六日示寂

西蓮寺伽藍初祖也 後去而至于長崎ノ 開創晧臺寺 晩年去而遊
武州 寂滅道場不詳 西方寺五世

八世東海幸暾大和尚

1674
皇紀二千三百三十四年
延寶二甲寅年
二月二十日示寂

住山後再建殿堂並諸堂庫院 又開創竹林寺而為初祖
西方寺六世

飯盛山洪徳寺由来

佐賀市大和町（市の北の郊外）玉林寺住職・勅賜真空禪師、無著妙融大和尚の弟子・天真融適大和尚は、師の滅後、後席を受け継いで玉林寺に住し、その後、弟子に寺を託して諸方行脚の末、佐世保市本山町に至りて新たに寺を興して宝亀山・新豊寺と名付け、師・無著妙融大和尚を請して開山（寺の創立者）となし、自からは新豊寺第二世と成る。時移り代替りて第五世照山 宗鑑大和尚 住す

これより先、永和年中、笑岩闇和尚の開創せる臨済宗の道場・洪徳寺（場所。相浦門前町の最も奥に位す）五代目にして時変に逢い、殆んど絶滅せんとするを、松浦丹後守 源 盛公大いに惜しみ、新豊寺に住せる照山 宗鑑和尚を洪徳寺住職に招き、寺門の復興を依頼す。照山宗鑑和尚、新豊寺本尊佛及び建造物一式持ち移り、新豊寺開山を洪徳寺開山に特請し、無著妙融大和尚の示寂（死亡）の年を洪徳寺創立の年とせり。時、明徳四年、今をさかのぼる事、約五百八拾年にして、足利義満が金閣寺を建立せる頃に当る。これより曹洞の宗風盛んに興る。以後、代変り、現住職に至つて第三十世なり。

尚明治維新の際、旧藩主松浦公、寺院の癈合を企て、当寺の末寺・竹林寺を癈して合併せしめ、其の跡え当寺を移築す。現在の境内地これなり。二十六世上野瓶城和尚、寺域を拡め、明治二十五年、越前福井より運搬せる欅材にて現本堂を改築し、廿七世山本祖学和尚、現受附側庫院を改築し、観音堂を新設し、廿八世谷口虎山和尚、三重の経蔵、納骨堂を建立し、山門の地を拡ぐ、更に、去る昭和三十五年、二階建位牌堂の改築成り、今般計画中の庫裡改築成つてか寺門の内外ほぼ整頓すと云うべし。

昭和四十一年三月

三十世 山木成一誌之

＜洪徳寺と末寺の動勢＞

1336〜1392（南北朝時代）　1467（応仁の乱）　1573（信長により室町幕府滅亡）　1603（江戸幕府）　1615（大阪夏の陣）（一国一城令）　1868

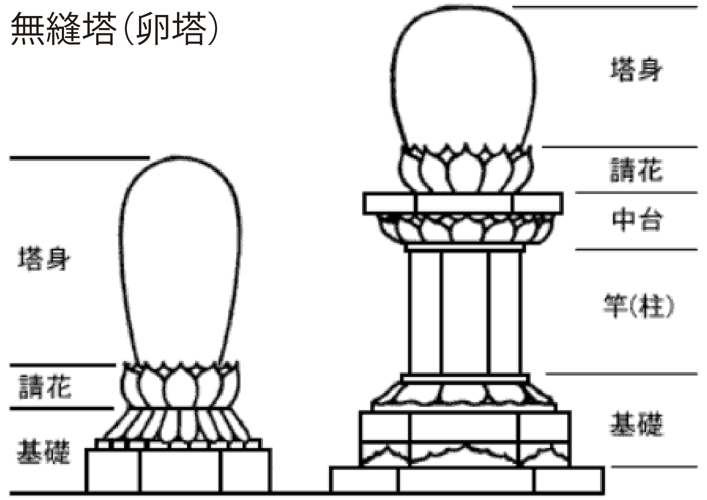
	鎌倉時代	室町時代	安土桃山時代	江戸時代	明治時代
洪徳寺 住所：相浦町		1375〜1379（永和年中） 臨済宗　密宗（真言宗） 笑岩聞和尚（しょうがんけんわじょう）開山 その後5代目にして時変に逢い断絶する 1565（永禄8年） 新豊寺と合祀して 曹洞宗飯盛山洪徳寺として 門前に再建する			1872（明治5年） 神仏分離令により 現在の地に移される 元々あった竹林寺は合祀される
新豊寺 ※廃寺 住所：下本山町		1406（応永13年） この年は新豊寺を開創した 天眞融適大和尚の没年 寺の開創年は不明だが 少なくとも室町初期には 開創されていたことになる 1443（嘉吉3年） 宗家松浦13代当主 盛が 巨鐘を寄進する 1565（永禄8年） 門前にあった洪徳寺と合祀して 曹洞宗飯盛山洪徳寺となる			
竹林寺 ※廃寺 住所：新田町		1550（天文19年） 親（宗金）の母（少弐政資の娘）が葬られる 1553（天文22年） 親（宗金）と妻（波多興の娘）の 逆修碑が建てられる	1583頃（天正11年頃） 丹州公の女子が早世したため その菩提を弔うために創建 『諸宗本末帳』より ※この年に洪徳寺末寺として再建されたか	1660（万治3年） 洪徳寺八世東海幸暾和尚により 賤津浦（現在の洪徳寺）へ遷る	1872（明治5年） 神仏分離令により 合祀され洪徳寺となる
心月寺 ※廃寺 住所：相浦町			1574（天正2年） 洪徳寺の末寺。 家臣と差し違えて亡くなった 九郎親の菩提を弔うために 宗金親が建立した。	1853〜1867頃（明治維新の頃） 合祀され洪徳寺となる	
泉福寺 ※廃寺 住所：瀬戸越２丁目泉福寺観音堂		創建時期不明 1492（明応元年） 鰐口が奉献される		1688（元禄元年）頃 柚木に再建される	1871（明治4年） 廃寺
医王寺 ※廃寺 住所：原分町 坂の上公民館の上手				〜1764（宝暦14年） 開祖とされる 密仁義融大和尚（洪徳寺14世住職）が 1764（宝暦14年）に没しているので 寺の創設はそれ以前 1866（慶応2年） 廃寺 檀家は西蓮寺に属する	
西蓮寺 ※西円寺→西蓮寺 住所：瀬戸越町 眼鏡岩		1420年頃（応永末期） 西円寺として 大野村堺木（現在地付近） に創建される 開基 雲山首座	1596〜1614（慶長年間） 堺木から原分へ遷る 西円寺から西蓮寺へ改名 洪徳寺の末寺となる		1919（大正8年） 原分から現在地へ遷る
西方寺 住所：八幡町	1249〜1256年（建長年中） 開基 香林和尚 臨済宗 帰一庵（きいちあん） 赤崎岳北麓	1458年（長禄2年） 赤崎伊予守が現在地に移し 洪徳寺三世 天翁鳳清和尚が開山 曹洞宗 東陽山西方寺と改称			
		〜1444年（〜文安元年） 開基 洪徳寺三世 天翁鳳清大和尚（てんのうほうせい） 西方寺 洪徳寺隠居寺 相神浦畑中免		1659年（万治二年） 僧 全堯（ぜんぎょう） 佐世保の現在地（八幡町）に再建 同時に洪徳寺八世 東海幸暾和尚（とうかいこうとん）を中興とする	

洪徳寺末寺

＜洪徳寺末堂＞

建久庵（久保）　**薬師堂**（中里村）　**阿弥陀堂**（門前）　**印香庵**　**観音堂**（門前）　**地蔵堂**（畑中）　**万福寺**（川下村）　**観音堂**（中里村）　**毘沙門堂**（中里村）　**阿弥陀堂**（中里村）　**千代地蔵堂**

参道石段



二四世　月佺笑巌大和尚（げつせんしょうがん・だいわじょう）　没年：明治七年（1874）
神仏分離令により明治五年（1872）に
それまで竹林寺があった場所に移る
墓石の確認できず
※二十五世の墓石は現在の洪徳寺にある

二三世　善器隆哉大和尚（ぜんきりゅうさい・だいわじょう）　没年：文久二年（1862）
墓石の確認できず

二二世　紹雲洞隆大和尚（しょううんとうりゅう・だいわじょう）　没年：天保十二年（1841）

二一世　鐵為大柱大和尚（てついだいちゅう・だいわじょう）　没年：天保十四年（1843）

二十世　慈明洞水大和尚（じみょうとうすい・だいわじょう）　没年：文化十一年（1814）

十九世　本応道護大和尚（ほんのうどうご・だいわじょう）　没年：文政元年（1818）

十八世　天応恵運大和尚（てんのうえうん・だいわじょう）　没年：寛政十二年（1800）

十七世　悟堂官亮大和尚（ごどうかんりょう・だいわじょう）　没年：享和元年（1801）

新豊寺住

一世？　勅賜真空禅師（ちょくししんくうぜんじ）　無著妙融大和尚（むじゃくみょうゆう・だいわじょう）（玉林寺開山祖）　没年：明徳四年（1393）
文字確認できず　基壇のみ
※後方に大きめの無縫塔身と請花と基礎が埋まっている

二世？　中興　天真融適大和尚（ちゅうこう・てんしんゆうてき・だいわじょう）（新豊寺開山祖）　没年：応永十三年（1406）
文字確認できず
※中台部分が上下逆ではないか

三世？　天翁鳳清大林大和尚（てんのうほうせい）（西方寺伽藍初祖）　没年：文安元年（1444）
文字確認できず　基壇と塔身のみ
※右隣との間に小さめの無縫塔の塔身と基壇が横たわる

四世？　凰沖大麒大和尚（ほうちゅうだいき）　没年：文明三年（1471）
文字確認できず　基壇のみ
※後方に大きめの無縫塔身が埋まっている

五世？　中興　照山宗鑑大和尚（ちゅうこう・しょうざんそうかん・だいわじょう）　永禄八年（1565）に新豊寺を門前へ移し洪徳寺に改名
塔身の五面に記載あり
當□　八世　□□玉林　□□　□□
※後方に請花が埋まっている

六世？　功雲宗徳大和尚（こううんそうとく・だいわじょう）
十三世　功雲徳大和尚

七世？　亀翁英鶴大和尚（きおうえいかく・だいわじょう）（西蓮寺中興開山）西蓮寺を堺木から原分岡免に移し西円寺から改名、大正八年堺木へ再移
没年：寛永十三年（1636）
十四世　亀翁鶴大和尚

八世？　東海幸暾大和尚（とうかいこうとん・だいわじょう）　新田の末寺・竹林寺を相浦に移し再建
没年：延宝二年（1674）
文字確認できず

九世？　龍睡幸天大和尚（りゅうすいこうてん・だいわじょう）　没年：寛文五年（1665）
文字確認できず

十世？　海印幸音大和尚（かいいんこうおん・だいわじょう）　没年：宝永三年（1706）
文字確認できず

十一世？　養嚴登安大和尚（ようごんとうあん・だいわじょう）
文字確認できず（綺麗に真っ二つに割られている？）

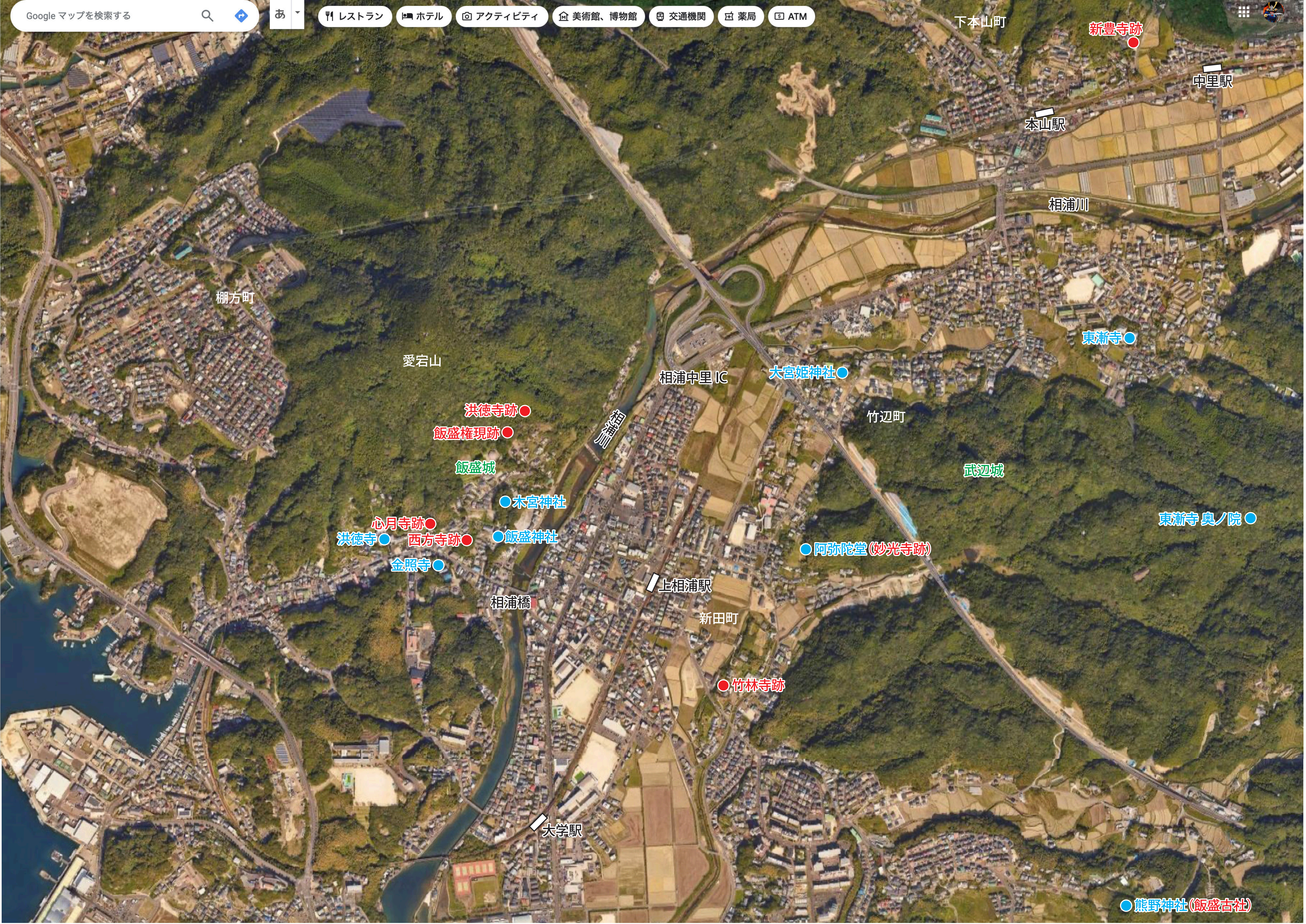
十二世　密道補線大和尚（みつどうほせん・だいわじょう）　木ノ宮神社（岐の宮）創建に関与する正徳元年（一七一一）の説あり
没年：享保十九年（1734）

十三世　厳哲戒光大和尚（ごんてつかいこう・だいわじょう）　没年：享保二十年（1735）

十四世　密忍義勇大和尚（みつにんぎゆう・だいわじょう）　没年：明和元年（1764）

十五世　祖宏真體大和尚（そこうしんたい・だいわじょう）　没年：明和三年（1766）

十六世　真龍友純大和尚（しんりゅうゆうじゅん・だいわじょう）　没年：寛政六年（1794）


Google マップを検索する
あ
レストラン
ホテル
アクティビティ
美術館、博物館
交通機関
薬局
ATM
下本山町
新豊寺跡
中里駅
本山駅
相浦川
棚方町
愛宕山
相浦中里 IC
大宮姫神社
東漸寺
竹辺町
洪徳寺跡
飯盛権現跡
相浦川
飯盛城
武辺城
木宮神社
心月寺跡
洪徳寺
西方寺跡
飯盛神社
金照寺
阿弥陀堂（妙光寺跡）
東漸寺 奥ノ院
上相浦駅
相浦橋
新田町
竹林寺跡
大学駅
熊野神社（飯盛古社）